

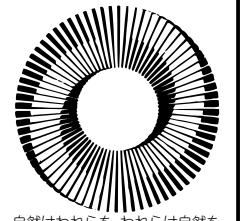


大木となった現在のケヤキ

秋

御苑のニレ科樹木

森本 幸裕



自然はわれらを われらは自然を

絶えまない人と自然の連携を象徴するメビウスの連環。これが息の長い活動が期待される自然保護のシンボルマークに表現されています。

発行人
〒602-0881 京都市上京区
京都御苑3番地
☎075-211-6364
一般財団法人 国民公園協会
京都御苑 加藤博之
編集
白川書院
監修
環境省京都御苑管理事務所
本紙は再生紙を使用しています。

京都御苑の周縁部の森は日本有数の「人が都市に作った巨木の森」になっていきます。かつてお公家さま達がお住まいだったところですが、明治初期の御苑の整備に伴ってケヤキがたくさん植栽されました。ムクノキやエノキというこれもまたニレ科の樹木も混じりますが、実は私の初めての学会誌に掲載された論文はこの樹木についてでした。だから私にとって京都御苑は「緑の専門家」としての人生を歩み始めた記念すべき場所なのです。

さて、このときの私の課題は、烏丸通り沿いの樹木の健康度がどんな具合なのか、土壌とか、土壌に影響を及ぼす人間の利用との関係はどうなっているのかを明らかにすることでした。なぜ、そんな課題ができたのかというと、当時一九七〇年代はじめは地下鉄烏丸線が計画中でそんなものを作ったら御苑の樹木が影響を受けるのではないかと懸念があったからなのです。京都市側の調査では、土質は砂礫だし地下水位は深いところにあって根系とはほとんど



当時のグラウンドにあった衰退したケヤキ

関係ないという見立ってだったのですが、かつて阪急の四條通りの工事で特に南側の井戸が枯れるなど大きな影響がでたことが知られています。なので御苑の管理事務所から依頼を受けた京都大学の堤

踏圧による土壌の圧密と樹木の生育状態について
森本 幸裕*
増田 拓郎*
Soil Compaction by Trampling and its Effect on Growth Condition of Trees
by Yukihiko MORIMOTO*
Takuroo MASUDA*
はじめに
市街地緑地の樹木資源の要因のひとつとして踏圧による土壌物理性の悪化が指摘されることが多い。しかし、この関係が具体的に調査された例はきわめて少なく、市街地緑地の土壌管理の見地からぜひ明らかにする必要があると考える。
本稿は、少なくとも近年まで樹木が比較的普通に生育していたと思われる京都御苑において利用による表土の圧密のようすと樹木の生育状態について調査した結果をとりまとめたものであり、環境庁京都御苑管理事務所の委託により行なった調査「京都御苑の樹木の生育と地下

造園雑誌に掲載された御苑の樹木の論文の冒頭部分

利夫先生は、まず樹木の現状から調べてみようという事で、荻野和彦先生も加わり当方が実動部隊でケヤキの健康診断と土壌調査と相成ったわけです。冬場だったので、葉ではなく、枝の枯れ具合を評価しようかという事で観察すると、グラウンドの横や駐車場になっているところの樹木だけが枝が枯れ込んでいて、見るからに元気がない。こりや、人や車が柔らかい土を踏みつけて固くなった

ら、具合悪くなるのも当たり前か、という仮説をたてました。そこで、土の固さとか空気や水の通りやすさや保持の能力などをいろいろ測って、どのような性質が指標として優れているか、診断の基準はどうしたらいいかを調べた次第です。

その後、高度経済成長で新たな緑地を作る事業も進むなか、特に関西では緑化事業のおそらく九割以上がそうした土の問題を抱えていることを知りました。大阪の万博記念公園の自然林の再生、関西空港のアトリウム樹木、最近では吉野山のサクラ林はじめ、実にたくさんさんの緑地を調べてきました。その調査方

法は植物の状態の評価には赤外線カメラとか樹液流計測装置はじめ、多様な先端技術をその後の研究では使うことになりましたが、この御苑でやった調査が私の原点と言えます。

そして今、ひとりの御苑を愛するユーザーとしてもう一度御苑周囲のケヤキを見ること、なんと大きくなったことか。そりやあれから四十年も経つてるんですものね。「地下

鉄工事よりは、御苑の樹木保護に配慮した利用形態とデザインが重要」とした、私たちの結論を尊重して、その後の対応をされた管理事務所に敬意を抱きつつ、抱きついても一人

では手が回らないくらい大きくなったケヤキたちに、これからのうぞよろしくという今日この頃です。
(京都学園大学
バイオ環境学部教授、
京都大学名誉教授)

京都御苑 秋の賑わい —時代祭など— 形谷 壘



京都御苑の中を進む時代祭の行列

多くの入浴者で賑わう紅葉の季節を前に、秋の京都御苑は、二つの大きな行事で注目を集めます。十月二十二日に行われる時代祭と、十月下旬から十一月中旬ごろに行われる京都御所秋季一般公開です。

時代祭は、葵祭・祇園祭とともに京都三大祭の一つとして、広く知られています。一八九五年(明治二十八年)、平安遷都千百年を記念して平安神宮が創建された時、市民により各学区で編成される「組」を単位に構成される平安講社

が組織され、記念行事として時代祭は始まりました。祭が行われる十月二十二日は、桓武天皇が七九四年(延暦十三年)に長岡京から平安京に都を移された日です。この祭の特色は、神儀のほか、時代風俗行列が行われることとです。明治維新から延暦時代へさかのぼり、千余年の文物風俗の変遷を再現します。「時代祭を見れば、京都の、今に生きる京都の歴史を偲ばせるのは、京都御所秋季一般公開ではないでしょうか。普段は事前申込制で参観す

る京都御所が、十月下旬から十一月中旬ごろの一定期間、一般に公開されます。国内外を問わず、この機会に京都御所を訪ねる入浴客から当方にも多くの問合せがあります。テーマにもとづいた展示や、蹴鞠、雅楽の演奏など訪れる人々を雅な世界へとご案内します。急増する海外からの観光客にも、伝統文化を体験できるこの貴重な機会を生かしていただこうと案内にとめていきます。

京都御苑内には、五摂家のひとつであった九條家の現存する唯一の建物で、江戸時代後期に建てられたとされる拾翠亭も訪れるべきポイントとして見逃せません。一般参観日に加え、時代祭、京都御所一般公開日にも見学することが出来ます。このように、京都御所と一体となった景観を維持する京都御苑は、京都の中心部に位置しながら、歴史的遺構や京都三大祭の掉尾を飾る時代祭といった行事により、多くの人々に親しまれています。
(公益社団法人 京都市観光協会)

催 事 案 内

■平成26年京都御苑自然教室

初心者の方を対象に自然教室を行います。秋の御苑の草花やキノコ、昆虫や鳥を観察しましょう。

秋の自然教室“秋の御苑にふれよう”

11月16日(日) 9:30~12:00

主 催 環境省京都御苑管理事務所 TEL075(211)6348
一般財団法人 国民公園協会 京都御苑

TEL075(211)6364

講 師 京都自然観察学習会の先生方に指導して頂きます。

集 合 場 所 京都御苑

石薬師御門前

(上京区京都御苑内北東門)

受付時間 当日 9:00~9:20

参加費 保険料100円

その他

筆記用具をご持参下さい。手持ちのルーペ、双眼鏡、図鑑などの観察用具や雨具があると便利です。



* 次回の自然教室予定

冬の自然教室 平成27年 1月 25日(日) 9:30~12:00

京都御所秋季一般公開

10月30日(木)~11月5日(水)

入場時間 9:00~15:30

入口: 宜秋門(ぎしゅうもん)

出口: 清所門(せいしょもん)

清所門の最終退出時間は午後4時15分

照会先: 宮内庁京都事務所 TEL: 075 (211) 1211

「閑院宮邸跡」見学

京都御苑南西角にある「閑院宮邸跡」の収納展示室では、京都御苑の歴史や自然の資料が展示されています。新たに整備された庭園と併せてご利用ください。

収納展示室 9:00 ~ 16:00(16:30 閉館) 入場無料
休館日/月曜日(月曜日が祝祭日の場合は開館)、年末年始

御苑の花暦

| 和名 | 開花期 | 主に見られる場所 |
|--------|--------|---------------|
| ミヤギノハギ | 7月~9月 | 児童公園、凝華洞跡東側付近 |
| ヒガンバナ | 9月中旬 | 御苑内の各草地 |
| サザンカ | 11月~2月 | 児童公園付近 |

会 員 募 集

- 年会費 ●普通会費 1,000円以上
- 賛助会員(会社・団体) 10,000円以上

■本会員への特典

1. 本会発行物をそのつど送付します。(御苑ニュースは会費収入で発行されています。)
2. 葵祭、時代祭の招待券を進呈します。(ただし、普通会員は会費4,000円以上の方に限ります。)

■申し込み、問い合わせ先

一般財団法人 国民公園協会 京都御苑
住所 京都市上京区京都御苑3
〒602-0881 TEL075(211)6364



巢孔を見守るアオバズク



アオバズクの食痕、
ガ類の翅が何枚あるだろうか?

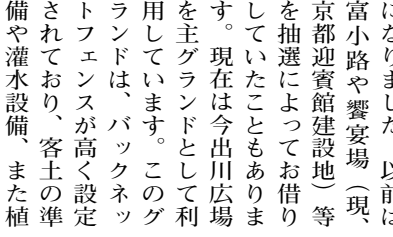
私たちは、時間、環境などを人間的な視点で物事をみてしまいがちですが、生き物にはそれぞれの時間の速さと適切な環境があります。まさにこのアオバズクがそれを教えてくれます。

京都御苑には大きな樹林も、巣となる木の洞も多くあり、さらにアオバズクが食べる昆虫類も多く生息しています。

アオバズクを見る時間の多くは、彼らが大切にしている大樹をみる時



木陰に休むナガサキアゲハ(♀)



餌を求めて林床を歩く
オオヒラタシテムシの幼虫

蛙と蜻蛉と森の池
京都御苑には、南東角に「トンボ池」と呼ばれる小さな池を中心とした約二千平方メートルの樹林地があります。このトンボ池の定点調査(注①)では、約五百種類の生き物の存在を知ることが出来ます。いつも姿を見せてくれるおなじみの種もあれば、たった一度だけ見

ることが出来た種もいます。彼らは、私たちが気付かない樹林の成長による陽光や温度、湿度のわずかな変化を敏感に感じ、私たちは彼らの存在を通して環境の変化をつかむことが出来ます。明るい水辺の減少と共に、以前は見ることが出来たアマガエルやトノサマガエルは姿を消し、今では

モリアオガエルは樹々の間に帰っていき、このトンボ池は、自然生態系保全のため通常は入ることが出来ませんが、年二回(春・夏)の一般公開があります。自然の風物詩を語る上で見逃せません。

今年もアオバズクが子育てをしました。彼らが遠く東南アジアなどからやって来る青葉の美しい五月、子育てに忙しい夏、そして再び南の国に冬越しのために渡る準備の秋。私

たちは、時間、環境などを人間的な視点で物事をみてしまいがちですが、生き物にはそれぞれの時間の速さと適切な環境があります。まさにこのアオバズクがそれを教えてくれます。

間でもあります。この大きな木にだけ多くの生き物が暮らしているかという想像すること、彼らのことをより深く理解できそうです。

私たちが理科で習った食物連鎖の図にあってはめると、彼らは多くの生き物の頂点に位置しているのと同じく、実際は多量の生き物の存在があつて初めて命をつなぐことができる極めて弱い存在であることに気が付きます。いつまでもアオバズクが暮らし、子育てができる環境であるためには、森全体

が健全であることが必要です。
足元に見る野生
森を歩くといふ大樹を仰ぎ見てしまうものですが、ぜひ足元にも注目してください。そこにはセンチコガネやオオヒラタシテムシをはじめとする土の地面を生活の舞台とする多くの甲虫類に出会うことができます。大樹の古い切り株には、熱帯雨林さながらに多様な草木の苗が光を求めて競争している光景を目にしてお借りして四十数年になりました。以前は、富小路や饗宴場(現、京都迎賓館建設地)等を抽選によってお借りしていたこともあり、現在は今出川広場を主ランドとして利用しています。このグランドは、バックネットフェンスが高く設定されており、客土の準備や灌水設備、また植樹など環境整備に力を

森の生き物・風物詩

河合 嗣生

「苑内利用者の声」今出川広場、少年野球の広場

田中 泰之

中京少年野球振興会が、京都御苑運動広場をお借りして四十数年になりました。以前は、富小路や饗宴場(現、京都迎賓館建設地)等を抽選によってお借りしていたこともあり、現在は今出川広場を主ランドとして利用しています。このグランドは、バックネットフェンスが高く設定されており、客土の準備や灌水設備、また植樹など環境整備に力を

入れて頂き、学童が使用するための安全と健康などに大変適しています。このように恵まれた環境で野球が出来ることが関係者一同喜んでおります。
我が振興会は、発育可能性の最も大きい少年期に野球を通して少年にスポーツの喜びを知ってもらい、「からだところづくり」の育成に寄与してゆきたいと願っています。現在八団、四・五・六年生

にある幾層もの樹々の空間があり、その環境に多くの生き物達が暮らしています。
かたや、私たち人間は散歩・自然観察・スポーツ・絵を描くことなど、さまざまな楽しみ方をしています。自然の生き物と私たちの

共有の場が京都御苑の苑に詳しい。
注①…食痕アオバズクの食べ残し。例えば昆虫類を糞に与える時にはあらかじめ茹かすなどの不消化物を取り除いて与える。この食べ残しを丹念に調べることアオバズクの食性やその量が判る。



緑の環境の中、のびのびとプレーする子供たち

春は桜、秋は紅葉、常緑の松の風景の中、京都御苑のグランドでしか味わえない試合ができることを誇りに思っています。
永くこの振興会を支えて下さいました故津田前会長や新会長の思いを胸に新しいページを迎えて、これから子供たちの成長を見守ってまいります。
(中京少年野球振興会 渉外理事)